

事業番号	6
------	---

**平成30年度 事務事業評価シート(実施計画事業 経常事業)**

<b>事業の概要</b>	事務事業名	ごみ減量推進事業(印刷製本費)						担当部	市民生活部		
	会計区分	一般会計						担当課	ごみ政策課		
	事業期間	平成27年度		～	平成31年度以降		担当係	ごみ政策課減量推進係			
	基本施策・展開方向	1	安全・環境		5	ごみ対策		2	ごみの減量・分別に対する市民の意識を高めます		
	予算区分	款	4	項	2	目	2	大	5	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的	何・誰を対象に	転入者・外国市民								
		どの様な状態にするのか	ごみの分別方法の啓発								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>転入者や外国人にごみの分別方法が分かるように『資源・ごみの分け方と出し方概要版』パンフレット等で啓発を行っている。</p> <p>(印刷物の作成) ・平成27年度実績: 日本語10,000部、 ポルトガル語・スペイン語・中国語 各2,000部、 英語・タガログ語・インドネシア語・ベトナム語 各1,000部(総計20,000部)</p> <p>(直接経費 内訳) 直接経費の内訳(主なもの: 支出ベース) ・印刷製本費 2,760,480円(2,760,480円÷20,000部÷1.08≒127円)</p> <p>平成26～30年度 ごみ減量推進事業 印刷製本費 総合計等) ※平成26～29年度&lt;直接経費(支出ベース)&gt;、平成30年度(予算ベース) ・平成26年度 6,798千円 ※ごみの分け方と出し方印刷 ・平成27年度 6,933千円(外国語版等印刷:2,761千円、筆耕翻訳:608千円) ※早見表印刷 ・平成28年度 5,486千円 ※ごみの分け方と出し方印刷 ・平成29年度 4,065千円 ・平成30年度 7,614千円(予算) ※ごみの分け方と出し方、早見表印刷</p> <p>(ごみ分別アプリの配信) ・平成28年5月 日本語版配信 ・平成29年7月 外国語版(7カ国語)配信</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H26決算額	H27決算額	H28決算額	H29決算額	H30予算額	
<b>事業費</b>	費用	直接経費	千円	6,798	6,933	5,486	4,065	7,614
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費		千円	748	748	748	748	748
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0	0
	費用合計		千円	7,546	7,681	6,234	4,813	8,362
対前年比		%	—	101.7	81.1	77.2	173.7	
<b>財源</b>	一般財源		千円	7,546	7,681	6,234	4,813	8,362
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	0
	その他財源		千円	0	0	0	0	0

業	成果指標名	単位	H26	H27	H28	H29	H30
	家庭系燃やすごみ(1人/日)排出量	g	目標	—	—	—	380
実績			390	394	387	386	
		目標					
		実績					
績	活動指標名	単位	H26	H27	H28	H29	H30
	『資源・ごみの分け方と出し方一覧表(概要版)』	部	目標	0	20,000	0	0
実績			0	20,000	0	0	
ごみ分別ダウンロード実績(外国語版)	件	目標	—	—	—	405	540
		実績	—	—	—	401	

事業の評価	平成29年度	事業の達成状況	平成27年9月に日本語・ポルトガル語外6ヶ国語の概要版総計20,000部を作成し、転入者や外国人に配布しており、また、不適正排出指導に改めて指導員が説明することでごみの減量・分別意識を高めてもらうための啓発資料としても継続的に利用して意識向上に寄与している。						
	平成29年度	事業実施における課題	平成27年4月の分別方法の変更にに基づき作成したものを利用しており、現在の分別方法と異なっている。不適正排出指導にも利用していることと、平成30年10月、平成31年4月にも排出方法に関して全市的な変更を予定しているため、現状にあった内容の冊子が必要になっている。						
	平成30年度	30年度における実施内容や結果見込み	平成30年度に排出方法の変更にあわせ、アプリを充実させる予定である。区に属さない住民への啓発に寄与している。また、事業所で働く外国人の教育、アパート管理会社からの配布希望も多い。 単身者等、区に属さない住民からの配布希望もあり、特定された不適正排出者に継続的に指導する際の確認資料としても活用している。区の集積場管理者からの要望も高く希望に応じて配布している。						
	平成31年度以降	事業の方向性	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの					
削減額・削減対象		事務事業評価による額	549	千円	予算区分	11	節	4	節
判定理由・削減内容		<p>周辺環境の衛生を保全し、ごみの減量を推進するためには、市民にごみの排出方法をよく理解してもらい、ごみの分別意識を高めていただくことが必要不可欠である。これらを推進するためには、転入者、日本語が不十分なため、未だ排出方法をよく理解していない外国人の方に対して、より分かりやすい方法で周知啓発を行うことが重要である。</p> <p>そういった中で、従来より日本語版・外国語版冊子を印刷することにより啓発を行ってきたが、カレンダー機能、分別検索機能、ごみの分け方と出し方の解説などを掲載したアプリを、日本人の方については平成28年5月に日本語版のアプリを配信し、平成29年7月に外国語7ヶ国語に対応したアプリの配信を開始した。</p> <p>外国語版についてはダウンロード数は配信開始から約1年で536件(平成30年6月末時点)と段階的に普及していることと、現在小牧市で居住する外国籍の方の居住者数等の推移から、今後の印刷物の作成にあつては、日本語(△2,500部)、中国語(△1,000部)、インドネシア語(△500部)で総計4,000部を廃止することで549千円を削減する。</p>							
31年度以降の実施内容	印刷事業費は、アプリの活用を行い外国語版の印刷部数を減らす等、事業内容を工夫し全体としての事業費の削減は行いが、印刷物による啓発事業は住民からの要望も高いものである。不適正排出を削減するためにも引き続き事業を実施していく。								